

アップネ アープ ウィミンズ コレクティブ

(Apne Aap Women's Collective)

(ウマング計画における幼児教育) (インドの地元新聞の記事から)

Apne Aap Women's Collective は 1998 年からスラム街の女性、その子供たち、社会の隅に追いやられた少女たちの生活向上のための援助活動を行っている NGO の団体です。そしてこれまで 1,400 人を超える女性たち、600 人の少女や 450 人の子供たちに手を差し伸べてきました。女性や子供たちにそれぞれ何が必要なのかを見極め、私たち AAWC は少しずつ活動や支援を広げてきました。たった一つの部屋をスラム街の女性たちにも、安全で休息の取れる場所として提供することからスタートしたのです。

ウマング計画では 2 歳半から 5 歳の子供たちの教育を二箇所の幼稚園で行っています。ウマングというのはヒンディー語で「新しい喜び」という意味です。多くの子供たちが、こちらへ来た当初は乱暴な態度を示し、汚い言葉遣いをしています。それは正に子供たちが暴力を受け、ひどいことばを浴びせられている、あるいはそれを見聞きする環境にいるということに他なりません。こちらでは正しい生活態度を身につける指導を行っています。

幼稚園では幼児教育の有資格者が子供たちの面倒を見、6 歳になると地元の学校へ行くお手伝いをします。子供たちには健康指導や衛生指導を行うと同時に食事を提供していますが、栄養のある食べ物は彼らにとってここでしか口にできないものかもしれません。

しかしこうした子供たちのための活動も厳しい状況におかれているのが現実です。スラム街のほとんどの子供たちが昼も夜も街でぶらぶらしてすごし、母親の仕事の邪魔をさせないように、雇い主に早く寝ようあちこち歩きまわされたりしています。

母親たちは深夜遅くまで働き、午前四時ごろに就寝、翌日の昼に起きます。そして夕方の四時くらいから仕事を始めるので精神的にも肉体的にも子供たちの世話をする余裕がないのです。AAWC では親に面倒を見てもらえない子供たちが安心して住める場所を提供していただける家庭も探しています。

私たちの活動の中には運動会や動物園への遠足など子供たちに楽しんでもらえるプログラムもあり、また芸術や歴史なども学べます。ウマング計画から卒業するとすぐ公立の学校へ進みますが、そのために母親を説得するのも私たちの仕事です。以下がこの 1 年の私たちの活動状況です。

1、 活動業績

- ウマング計画のサービスを受ける人たちの人数が徐々にではあるが増加。
- サービスを受けている子供たちの 85%以上が毎日通園。

2、 在籍者

- 母親 43人
- 小学生 15人
- 奨学生 (小学校) 15人
- そのうち課外活動参加率 100%

3、 身体的及び精神的発育

- 定期的な身体と知的レベルの観察
- 80%の子供が健康で栄養状態良好
- 地元の病院と連携して0歳から5歳のすべての子供に予防接種を実施

4、 中途脱退者

- 9人（昨年）

原因

- 母親とともに他のスラム街へ移動
- 警察による継続的な保護活動
- 政府スラム支援活動による地域からの移動
- 帰郷
- 母親による我々の活動に対する無理解
- 深刻な病気など

5、 遠足

- 動物のいるハンギングガーデンズへ日帰り遠足

6、 質的教育達成状況

- 行動の変化

厳しい環境に置かれ、荒れていた子供たちがセラピーやカウンセリングの結果、社会生活に適応

- 成績、学力レベル

学力がとても低い子もいれば、非常に成績がよい子供、あるいはよくなった子がいる。現在60%以上がアルファベットを読める。子供たちは最低4つの詩、2つの物語を暗誦することができる。また90%以上が基礎的な色、形などを認識でき、インド固有の動物と外国の動物の区別ができる。交通手段や野菜の重要性も認識。

- チームワークとリーダー

グループ活動や時には先頭に立って行動ができるように、子供たちは多くの野外活動に参加している。しかし障害のある子は教師の特別な配慮の下その子のできる範囲で行う。

- 行事

スポーツ、ダンス、歌やお祝いの会など

7、 学習や行事

毎日

- 図の見方、基礎計算、理科の実験
- 体操
- インターネットを利用した学習（1時間）

隔日

- 図工
- 野外でのゲーム

毎週

- ダンス（金曜日）
- FUN&PLAY ゲーム（土曜日）

毎月

- 身長、体重測定
- 親との会議
- ワクチン接種

年間

- ピクニック
- 花の種まき
- さまざまなインドの記念日のお祝い
- クリスマスや新年のお祝い
- お別れ会
- 歯磨き運動、健康促進運動、ポリオなどのワクチン接種

8、 課題

- 警察の手入れで親と子供が現在の場所からいなくなるため、AAWCに参加している子供の数が減少
- 家庭内の問題（慢性的あるいは命にかかわる病気、アルコール中毒の母親の影響による少女の成長阻害）
- スラム街に身を置く母親の非協力
- 母親への説得が困難
- 精神的そして行動的に問題のある子への対処
- 勤務地がスラム街にあることによるスタッフの頻繁な入れ替わり（スタッフの親が自分の娘たちが歓楽街にある場所に勤務することをきらい3人が退職）
- ワクチンに対する母親の迷信
- 家庭における皮膚病予防が困難
- 狭く空気の循環ができない教室（2014年1月に広くてよりよい場所に引越し）
- 地元の子供福祉センターの不手際で危険な状態の子供に適切な援助ができない場合がある